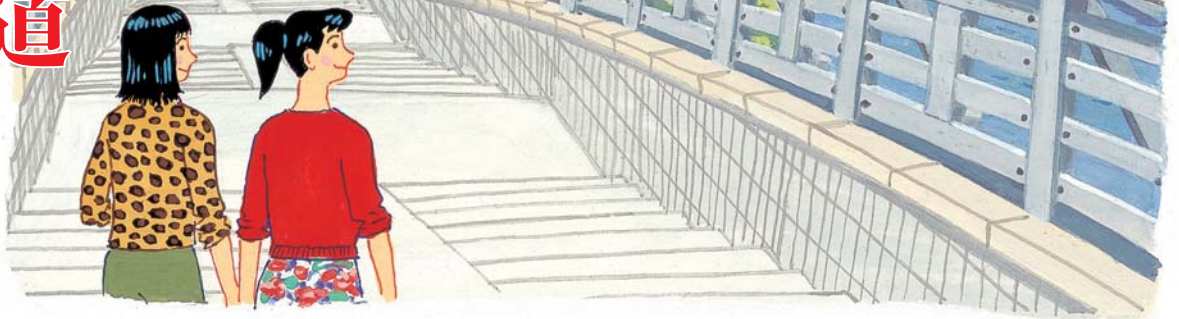


江戸時代と現代を結ぶ 松並木の街道



あすまでです。今月は親友のザリナと一緒に、草加駅から隣の松原団地駅までを散策してきました。途中には芭蕉と「奥の細道」にちなんだ見どころがいっぱい。ここは「矢立橋」。この木鼓橋を越えれば、江戸時代から「千本松原」と呼ばれていた「草加松原遊歩道」が約1.5kmも続いています。(MAPの㊤)

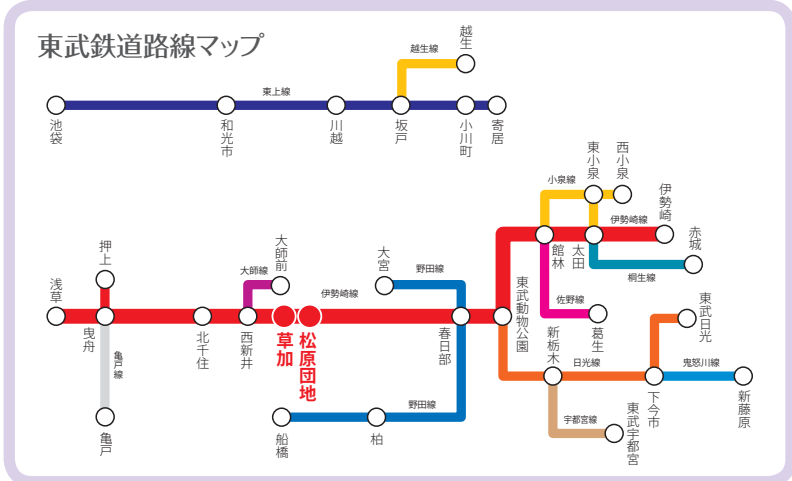
今回の登場人物



ザリナ
貿易会社に勤める
マレーシア人。留学生
として来日した大学
時代からのあずまの親友。



業平あずま
業平家の長女。母親が
経営する小学生向けの
英会話教室を手伝う。
趣味は旅行。



草加・松原団地

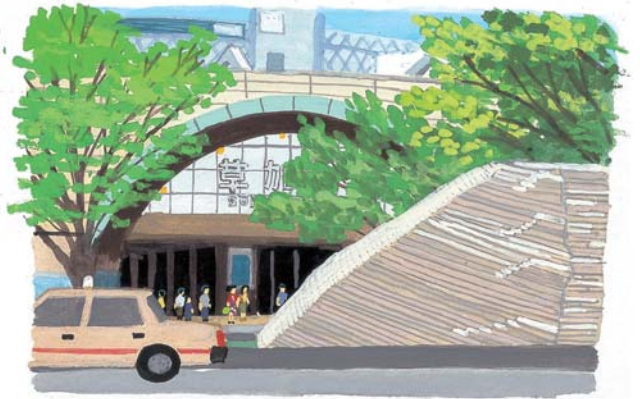
(そっか・まっばらだんち)

江戸時代初期に、奥州日光街道2つめの宿場町として誕生した草加宿。日光参詣や参勤交代の往来、綾瀬川の舟運で大いに栄え、松尾芭蕉も「奥の細道」紀行で立ち寄っています。

「今様・草加宿」は、草加駅東口の旧町地区から草加松原や綾瀬川左岸、松原団地駅東口までの地域を、歴史や文化、景観資源を活かしながら、賑わいのあつたかつての草加宿を現代風に再生していくと進められているまちづくりです。



ここは「草加市立歴史民俗資料館」。大正15年竣工の草加小学校西校舎を改修したもので、国の登録有形文化財でもあります。草加宿や手焼きせんべいの道具に関する展示のほか、出土した縄文時代の丸木舟も見ものです（MAPの⑥）



北千住駅から急行で約10分、『草加駅』に到着。東口から出ると、大理石のモニュメント「草加石清水」が目に見え、入ることができます。駅前広場では「おせんさんの像」や、おせんべいを食べる「アコちゃんの像」がお出迎え。



今夏の7月24日にオープンしたばかりという「草加宿神明庵」です。古民家を改修した建物も雰囲気があります。1階は観光案内所とお休み処で2階はギャラリー。草加宿来訪者への、おもてなしスポットになっています。（MAPの④）



旧日光街道にはせんべい屋さんがいっぱい。ここは「草加せんべい志免屋本店」です。明治34年創業の老舗で、手焼きせんべい体験ができますよ（1枚60円）。香ばしい焼き立ての草加せんべいを堪能しました。（MAPの③）

せんべいの地碑が建っています。

「草加」といえば「せんべい！」と反射的に答えるほど馴染み深い草加せんべい。草加駅東口の広場に出ると、せんべいを焼くおせんさん（伝説上の草加せんべい創始者）とせんべいを食べる少女（アコちゃん）の像が出迎えてくれます。

まずは草加の歴史を知るべく、駅前一番通りを歩いた先の「草加市立歴史民俗資料館」へ。同館は大正時代に建てられた小学校の鉄筋校舎で、国の登録有形文化財。館内には県内最古で縄文時代前期の丸木舟はじめ、さまざまな時代の資料約1600点が収蔵されています。

草加宿が開かれたのは、1630（寛永7）年。最初は旅籠が数軒あるだけの小さな宿場でしたが、江戸後期には本陣を備え、豪商を輩出するような大きな町となっていたようです。いまは現代の街並みとなっている旧日光街道ですが、歩いてみると町屋造りの商家や土蔵など、宿場町の面影をあちこちに見いだすことができます。そんな古民家の一軒を利用した観光案内所＆お休み処「草加宿神明庵」が、今夏オープンしました。

旧街道を歩いていると漂ってくるのは、醤油が焼けるいい香り。草加せんべいの店々です。草加市は「かおり風景100選」（環境省）に「草加せんべい醤油のかおり」の街として認定。良質な米と水、野田産の醤油から産まれた草加せんべいは、舟運によって江戸に運ばれて大変な評判を呼びました。旧街道沿いの「おせん公園」には、草加せんべいの本家本元を全国にPRすべく、草加

せんべいの香り漂う

旧日光街道

せんべいの香り漂う



埼玉県の指定文化財になっている「甚左衛門堰」です。明治27年に改築され、約90年使用された二連アーチ型のレンガ造水門。綾瀬川から松右川へ逆流する水が田畑に浸入するのを防ぐ目的で設けられたそうですよ。(MAPの⑤)



せんべいに見立てた自然石の「草加せんべい発祥の地碑」が立つ「おせん公園」。隣の細長い石は、おせんべいを焼くときに使う火箸に見立てているそうです。お土産に草加せんべいをたくさん買いましたよ、おせんさん。(MAPの⑤)



ハーフ橋で綾瀬川の対岸に寝り、「草加市文化会館」へ。その階に「伝統産業展示室」があります。草加市の3大地場産業である「草加せんべい」「ゆかた染め」「皮革製品」の展示・販売のほか、体験教室もありました。(MAPの④)



「札場河岸公園」には、木造の五角形の建物「望楼」が建っています。展望台からは松並木を一望にできます。このそばには、弟子たちとの別れを惜しむように千住方面を振り返っているという「松尾芭蕉像」がありました。(MAPの④)

なると思いますよ。

足をとめ湯に浸れば、最高の散策の締めくくりになると思いますよ。

また園内には、明治27年から約90年間稼働した2連アーチのレンガ造り水門「甚左衛門堰」が、そのまま保存されています。

千住の方を振り返る姿になっています。

現代によみがえった 千本松原の風景

旧日光街道はやがて綾瀬川の流れに寄り添います。かつての舟運の荷の揚げ下ろし場を復元した「札場河岸公園」には、松尾芭蕉の像「奥の細道」

には、千住宿から日光道中へ旅立ち、「もし生きて帰らばと、定めなき頼みの末をかけ、その日やうやう早加(草加)といふ宿にたどり着きにけり」と記されています。そこで、この芭蕉像は南の千

住の方を振り返る姿になっています。

また園内には、明治27年から約90年間稼働した2連アーチのレンガ造り水門「甚左衛門堰」が、そのまま保存されています。

札場河岸公園から先は、綾瀬川に沿って松並木の「草加松原遊歩道」が続きます。江戸時代は「千本松原」と呼ばれる名所でしたが、昭和になって

クルマの交通量の影響などで松並木が激減。そこで松を補植するとともに車道を付け替え、石畳の

風情ある遊歩道に整備したのです。車道との交差点には和風の太鼓橋「矢立橋」「百代橋」が架かり、昔の街道気分を盛り上げる景観になっています。

また、札場河岸公園から草加松原遊歩道にかけては、正岡子規や水原秋桜子の句碑、芭蕉の文字碑が点在。いずれも草加に縁のある作品です。

百代橋の交差点を東へ進むと、綾瀬川の向こうに「草加市文化会館」。ここには草加の3大地場

産業といわれるせんべい、浴衣染め、皮革を展示・販売する「伝統産業展示室・売店(パリッセ)」

があります。百代橋の交差点を西へ進めば、ほどなく松原団地駅。駅そばの「湯屋処まつばら」で

足を休め湯に浸れば、最高の散策の締めくくりになると思いますよ。



散策の最後は、松原団地駅そばの「湯屋処まつばら」。ザリナと二人で決めていた、今回の小旅行の締めです。16種類のお風呂にサウナがあり、存分にリラックスさせてもらいました。ついでにエステも利用しちゃいました。(MAPのJ)



ランチに入った「塩梅」というお店。ロース生姜焼き、豚トロ角煮、カニクリームコロッケなど、一工夫した味付けが人気の、清潔感漂うお店でした。ランチ780円〜。(MAPのI)



草加・松原団地データファイル

〈草加市立歴史民俗資料館〉・・・●交通＝草加駅徒歩10分 ●開館時間＝9:00～16:30
●休館日＝月曜(祝日の場合は翌日)、年末年始(12/29～1/3) ●入館料＝無料
☎048-922-0402
〈草加宿神明庵〉・・・●交通＝草加駅徒歩15分 ●開館時間＝11:00～16:00 ●休館日＝月曜(祝日の場合は翌日) ●入館料＝無料
☎048-948-6882
〈草加市伝統産業展示室・売店(パリッセ)〉・・・●交通＝松原団地駅徒歩5分(草加市文化会館1階) ●開館時間＝10:00～18:00
●休館日＝第1水曜、年末年始(12/29～1/3) ●入館料＝無料
☎048-931-1970

〈湯屋処まつばら〉・・・●交通＝松原団地駅徒歩3分 ●営業時間＝10:00～26:00(翌日午前2時) *年中無休(点検日は休館)
●入館料(平日*カッパ内は土・休日料金)＝大人500円(600円)/小学生250円(300円)/幼児150円(200円) *お得な会員割引あり
☎048-930-5526
〈草加せんべい 志免屋本店〉・・・●交通＝草加駅徒歩10分 ●営業時間＝9:00～21:00
●定休日＝金曜 *手焼き体験は予約不要(1枚60円)
☎048-931-2666
〈塩梅〉・・・●交通＝松原団地駅徒歩2分 ●営業時間＝11:30～14:30、17:00～24:00
●定休日＝月曜 *ランチは780円～
☎048-932-7778



東福寺
山門と鐘楼が市の指定文化財です。